

2019年4月12日

---

## 日比谷本社電力をすべて再生可能エネルギーに切替え ～CO2を排出しない水力電源 東京電力エナジーパートナー「アクアプレミアム」を導入～

---

第一生命ホールディングス株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二)は、4月1日(月)より、第一生命ホールディングス・第一生命保険が入居する日比谷本社(東京都千代田区)のすべての電力を、CO2を排出しない水力電源を用いた電力メニュー(東京電力エナジーパートナー「アクアプレミアム(※)」)に切り替えました。

※銀行・保険業界で当社が初めて導入

本取組みにより、年間約3,600トンのCO2排出量を削減することになります。

これは、杉の木 約25万本が1年間に吸収するCO2に相当します

\*杉の木は年間14kg/本のCO2を吸収(出典:環境省/林野庁)



(日比谷本社)

第一生命グループは、2018-2020年度の中期経営計画「CONNECT 2020」において、クリーンエネルギーの活用、気候変動といった環境問題への対応を、成長実現の基盤として継続的に強化すべき領域と位置付けています。

(参考:第一生命ホールディングス HP <https://www.dai-ichi-life-hd.com/sustainability/important/theme06.html>)

当社グループはこれまでも地球温暖化防止に向け、事業活動に伴うエネルギー使用量の削減、紙使用量の削減等に取り組んできました。また、2018年9月には「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同を決定し、気候変動が当社グループの事業に与えるリスクと機会について分析を深め、更なる情報開示に向け準備を進めています。今回の再生可能エネルギーの追加導入に加え、今後も、グループ一丸となって環境保護・保全と環境負荷低減に取り組んでいきます。